

航空自衛隊松島基地



Blue Impulse
ブルーインパルス

巻頭特集 希望を描く“蒼き衝撃”

防衛や救難など空から日本の平和を守る航空自衛隊。その役割を広く人々に周知するのが松島基地第4航空団所属の第11飛行隊、通称「ブルーインパルス」だ。数々の国を挙げた行事や地域イベントでアクロバティックな展示飛行を披露。来夏の東京オリンピックでは、約半世紀前の東京大会と同じく開会式の空を駆けることに期待が集まる。8月25日の同基地航空祭を前に、ブルーの歴史と、創造への挑戦、を胸に刻む隊員たちの姿を紹介しよう。



初代チーム誕生

ブルーインパルスは初代「F-86」、2代目の「T-2」、そして現在の「T-4」と機体が更新されており、チームの歴史もまた、それを区切りとして語ることができる。

F-86、通称「ハチロク」による曲技飛行訓練は1954年の航空自衛隊発足から間もない時期に始まった。アメリカ空軍曲技飛行チーム「サンダーバーズ」のパフォーマンスを参考として静岡県浜松基地第一航空団の訓練で自主的に導入され、後に正式化。初の一般披露は1958年の浜松北基地開庁記念式典で行われた。

松島基地に編隊

こうした取り組みを土台に、曲技飛行チームが正式に成立したのは1960年。ちなみにこの時期からすでに部隊名の愛称は「ブルーインパルス」だったが、機体の色は銀。以前のチームがコールサインとして使用していた「インパルス・ブルー」が由来という。

ブルーが一気に知名度を高めるきっかけとなったのが、1964年の東京五輪開会式。会場上空を通過するという五輪組織委員会の要請に、カラーズマークで五輪シンボルマークを描くサブライズで応え、世界中の人々を沸かせた。



によれば「親子連れやカメラを持つたチビッコたち」が多数来場したという。

1970年の大阪万博など多数の大舞台を経験したハチロクも、70年代の後半に入ると世代交代が検討されるようになった。そこで後継機とされたのが、シャープな機体と優れた高速性能を誇る練習機T-2。これによる戦闘技術教育を実施していたのが松島基地第4航空団であり、曲技飛行訓練を経て1982年にT-2ブルーが設立された。

その年の松島基地航空祭では初の公開展示飛行を実施。天候の関係からアクロバットは披露できなかったものの、当時の石巻日日新聞

五輪の空に膨らむ期待

T-2もまた、1995年に引退するまでの13年間で、175回の公式展示飛行を全国で繰り広げ、力強い演技で人々を魅了した。中でも1994年、ブルー設立の大きな要因となった米空軍「サンダーバーズ」と三沢基地航空祭で共演を果たしたことは、ブルーインパルスが一つの曲技飛行隊として確たる歴史を築いたことを示すシンボリックな出来事だった。



ムへの戻ってきた。

それからのブルーは、地域外の人々に被災地のエネルギーを伝えること、そして地元住民の復興への希望の象徴としての役割も担い続けている。

そして来年夏、復興五輪を掲げる東京オリンピックがやってくる。ギリシャで採火された聖火の到着地が松島基地に決まっており、そこから被災3県で巡回展示される。再び五輪の空を駆け、ブルーの歴史に新しい1ページが刻まれるか。地元住民は大きな期待を抱いている。

こうした中、2011年にはホー



継承する技と心



3番機操縦者 久保佑介一等空尉

第11飛行隊ブルーインパルスには現在、四十数人が所属。T-4は流線形のボディラインから「ドルフィン」の愛称があり、パイロットたちは「ドルフィンライダー」、整備・総括クルーたちは「ドルフィンキーパー」と呼ばれている。力強いブルーのパフォーマンスはその全員が持てる力を注ぐことで初めて成立する。

ブルーは6機編隊でパイロットは十数人が在籍。本人の希望と高度な技能の上に全国から精鋭が選抜され、3年を任期として1〜6番機ごとの専任となる。1年目は演技習得に費やされ、2年目から展示飛行を行うようになり、3年目では担当機の教官として後輩の指導にも当たる。

6機のうち、若いパイロットが配置されることが多いのが3番機。現在担当している久保佑介一等空尉

(3)は一昨年末に着任した。「子ども」のころにアメリカでエアショーを見たことが今につながっています」と振り返る。

訓練では一日に多いときで3度フライトの機会があり、1回当たりの飛行時間は約40分。飛行機に乗り込んではエンジン停止して降機するまで、一切気が抜けません」という。

ブルーの演技は感覚で掴む部分が大きく、パイロットの師弟関係のものと番機ごとの一子相伝で継承されている。とはいえ「パイロットは負けず嫌いな人が多いですね。先輩にすら負けたくないくらいです」と久保一等。「フライトが終わって『きょうの演技は完璧だった』と思うパイロットはいないはずですよ」という。その進取の精神が技術とともに受け継がれることで、ブルーの演技は歴史を重ねるほどに磨かれている。

着実な整備で築く信頼

飛行を地上でサポートする整備員たちもまた番機ごとの専任で、基本的な任期は3年。飛行訓練前後にミリ単位の点検整備を行う。整備小隊列線分隊のサブチーフの亀山欣之一等空曹(36)は「スクリーン一本が落ちただけで命に係わり、地域住民にも被害が及びかねません。我々の仕事は信頼を作る仕事です」と責任感を口にする。

また整備小隊長の中原結城二等空尉(36)は、整備のスケジュールや機体の状態、さらに隊員たちの体調まで俯瞰で把握し、円滑に整備を進めるマネジメント役。「整備は決して一



整備員 亀山欣之一等空曹

人でできることではない」とチームプレーを強調しつつ、亀山一曹と同じく「私たちの負う広報という任務は安全を前提に成り立っています」と完璧な仕事を胸に刻む。

全国の各航空団もT-4を保有しているが、曲技飛行に欠かせないスモークの噴射器をはじめ、ブルーには独自の装備がなされている。そしてブルーならではの言葉もある。それは「ブルーならでは」と言える風習もあり、1機と真剣に向き合うパイロットと整備員の、機体を通じた強い絆を示す。それが展開や展示飛行前日に行う機体磨きだ。松島基地のブルーインパルスは航空自衛隊の「顔」。きれいな機体を見せようため、パイロットと整備員が協力して機体が鏡のようになるまで丁寧に磨き上げるのだ。



整備小隊長 中原結城二等空尉

わがまちのブルー

ブルーは少数精鋭の部隊で数々の広報任務をこなすだけに団結力が強い。そんな第11飛行隊で現在、指揮官を務めるのが飛行隊長の福田哲雄二等空佐(41)だ。2017年度に着任し、「こちらで新鮮なホヤ刺しを食べたとき、初めてホヤの本当のおいしさがわかりましたね」と笑う。その姿からは、広報を担うブルーの隊員に欠かせない「親しみ」という資質が伝わる。

飛行隊長は上空でも編隊の先頭を飛ぶ1番機に搭乗し、全体を統率。

「隊員がチームを好きでいてくれることがうれしく、一日の訓練が無事に終了したときには感謝の気持ちで

あふれます」と思いを込める。

肩書に明確な上下関係のある自衛隊の中にあつてこそ心掛けるのは風通しの良いチームづくり。「上空でのリーダーの判断は必ずしも正しいとは限らない。盲目的に指示に従うのではなく、自ら考えて意見できることが大事です」という。

任期の3年目を迎えた現在、リーダーとして部隊をまとめるとともに、一人の操縦者として後輩の育成にも取り組む。指導の上では「自分ではできないことは人並みにできなかった。だからこそ、それをどうやって乗り越えたかを伝えるようにしています」と話す。

上空では演技を通して感動を与え、地上では笑顔で市民と触れ合う。航空祭などでは市民から「元気づけられました」との言葉を受けるが、

「私たちが飛行できるのも、地域の皆さんの理解と協力あってこそ。チームも多くの皆さんから勇気をいただいているんです」と感謝する。

地域とブルーは切り離せない関係にあり、そのつながりは単に基地と自治体ということにとどまらない。福田二佐の言葉に見るように、隊員と住民は互いへの感謝で結び付いている。だからこそ、わがまちのものであるブルーが飛ぶとき、人々は明るい笑顔で空を見上げるのだ。



飛行隊長 福田哲雄二等空佐

蒼の夏がやってくる!



東松島夏まつり 8/24(土)



松島基地航空祭 8/25(日)

基地を一般開放する松島基地航空祭は今年、8月25日の開催。ブルーによる展示飛行はもとより、その他の戦闘機や救難機も実物が間近で見られる。パイロットとのふれあいも毎回好評となっている。

前日には旧国道の矢本商店街などで「東松島夏まつり」も実施。ロゴにも飛行するブルーがあらわれ、青いものを身に付けて来場すると記念品がプレゼントされるなど、*基地のまち、を強調。もちろん展示飛行も実施する。

問い合わせ

航空祭 ☎0225-82-2111 (基地広報班)
夏まつり ☎0225-82-2088 (東松島市商工会)

唐揚げ? 空上げ?

日々の訓練に臨む航空自衛隊員たちの活力源が食堂での給食だ。メニューの中でも特徴的なのが「空上げ(からあげ)」。「空自全体で上を目指す」思いを込めたネーミングで、地域ごとのアレンジ唐揚げがある。松島基地では東松島市特産のノリのほか、仙台みや油麩、薬塩を使ったもの。各基地のホームページでレシピも公開している。



仙台味噌空上げ

いつも身近にブルーを

ブルーは衣類や玩具に文房具などグッズ展開も幅広い。基地にグッズ購入だけではないが、周辺施設では扱う店も数多く、手に入れやすさは地元住民でこそそのメリットだ。東松島市のアンテナショップ「まちなど」にもそろそろほか、個人経営の店舗が独自にブルー商品の開発をすることも。地域を巡ればレアなグッズに出会えるかも?



3



2



1

- 1 ドルフィンキーパーたちの待機事務所。仲間同士でリラックスした表情をのぞかせる
- 2 第11飛行隊の隊舎。内部には実際の搭乗席などを展示するミュージアムもある
- 3 格納庫にはブルーの機体がずらり。見学者向けにしっかりライトアップされ、整然とした雰囲気だ